

宮崎市立生目中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

学力調査結果から本校の課題を見たところ、国語科では「部首」「同音異義語」が県の平均を下回っており、「文脈に即した内容の理解」が低い通過率であった。数学科では、「正四角錐の体積」「反比例の関係を表す式」「事象の中の比例関係」「具体的な事象と反比例」、英語科では、「英語的表現」「会話表現・状況判断」がそれぞれ50%~60%台の低い通過率であった。理科では、「合弁花と離弁花」「葉と蒸散の関係」「火山灰の観察方法」が県の平均を下回っており、「焦点距離」は26.1%という低い通過率であった。社会科では、「日本の領域」「日本の経済水域」「鎌倉幕府の成立」がいずれも40%台という低い通過率であった。

(2) 意識調査結果からの課題

意識調査結果から本校の課題を見たところ、「自分の物の見方や、読書をするのが好きである。」に肯定的な解答をした生徒が58.8%と県の平均を約10%下回っており、「自然や科学(理科)についての本や図鑑、テレビ番組をよく見る。」でも県の平均を4%下回っていた。さらに「本や新聞を読む」で肯定的な解答をした生徒は55.8%と県の平均より5%以上低かった。また、「放課後や土曜日などの学校行事に参加している。」では8%、「家族といっしょに工作や料理をする。」では、4%県の平均を下まわっており、とりわけ「自分のことは自分ですするという習慣を身に付けよう。」では50%と、県の平均を10%も下回っていた。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上へ向けた経営方針

学校経営案に、「学力向上を目指す教育を推進する。」という表題で以下の3つが掲げられている。

- ① 確かな学力を身に付けさせ、進路保証の指導を実践する。
- ② 分かる授業と学び直しが保証される指導を実践する。
- ③ 2学期制を生かした学習成績等連絡表「夢チャレンジャーへの道」の活用を促進する。

また、本校教育目標の具現化を図り、教育的課題を解決するため、生徒一人一人への関わりを強めるための努力事項として、以下の9つが掲げられ実践されている。

- ア 授業の完全実施(週時間割の作成)
- イ 自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力の育成
- ウ 基礎的、基本的事項の精選と指導の徹底
- エ 学習能力の的確な把握と個別指導の充実、宅習の推進
- オ 教育機器、教具、資料の活用と学習指導法の改善
- カ 自主的、自発的な学習態度の確率
- キ 全教育活動を通じての進路指導の充実
- ク 進路指導の計画的実施と内容充実
- ケ 小学校、高等学校との連携

(2) 教育課程内の取組

学力調査および意識調査結果から、まずどの教科にも共通する「文脈に即した内容理解の力」「表現の力」を向上させることに力をおいた。国語科と連携し、文章をしっかりと読み取る力を付けるために下記のことを力を入れてきた。

- ① 教科書の文章を使い、内容を細かくていねいに読み込む練習をさせる。
- ② 週末課題で文章問題を出し、教科書以外の文章を多く読む機会を与える。
- ③ 朗読テープ等を用い、音読の練習に力を入れる。

また、総合的な学習の時間等で教師や講師による講話を聞く機会を多く持ち、内容をつかむ力の向上に努め、その後、感想レポートやお礼の手紙等を書かせることによって自分の意見をまとめ

たり、発表会を行って、表現する力や人の意見を聞き取る力の向上に努めている。

(3) 教育課程外の取組

学力調査、意識調査共に「読みとる力」が不足しているという結果であった。これを向上させるために生徒の読書量を増やすことが必要であり、読書のきっかけをつくらなければ自発的に読書を始めるとはできないと考え、以下のことを実施した。

① 学級文庫の創設と定期的な入れ替え

図書室に行かなくても、読みたいときに簡単に取り出して読むことができるように、年間を通じて常時学級文庫に約50冊の本を準備し、定期的に入れ替えを行っている。

② 教育相談期間中の読書

年間の時間	1日30分×10日×3回	(合計15時間)
-------	--------------	----------

本校では、年に3回教育相談期間を設け全校で取り組んでいる。帰りの会終了後の30分間を使い、担任教師と生徒が1対1で行っている。その間他の生徒は、学級文庫や図書室または自宅より読みたい本を準備し読書活動を行っている。副担任の教師は、教室を見回ったり、一緒に読書を行っている。簡単な読書カードを作成し、自分の読書量の成果が確かめられるようにしている。

③ 学年図書の設定

学年教師が読んだ本で、生徒にも勧める本を職員室前の一角に置き、一言断るだけで貸し出し可能にしている。読後感を生徒と話し合えるなど、コミュニケーションにも一役かっている。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

① セミナー学習

本校では、全学年セミナー学習を取り入れている。セミナー学習の実施方法・意義は、入学説明会、家庭訪問、学級懇談、三者面談や各種の通信を通じて保護者に説明をし、家庭での協力を依頼している。また、地区懇談会や学校評議委員会でも学校の取組として地域の方に紹介し、理解を頂いている。

セミナー学習の方法

- ・ 家庭学習として毎日1枚を自宅で解き、翌日の朝自習の時間に解答し、セミナーノートに間違えたところを、やり直す。
- ・ 各講座終了時に、朝自習時間を利用してセミナーテストを実施する。
- ・ セミナーテストの学年平均点の目標を380点としている。
- ・ テスト結果は、「夢チャレンジャーへの道」によって保護者に伝える。

② 夢チャレンジャーへの道の活用

「夢チャレンジャーへの道」は、本校独自の学習連絡表で、成績の記録やグラフ欄の他に、「自分の良さのあゆみ」という題で、部活動やボランティア活動における活躍を記録する欄や、体力テストの結果を貼付する欄もある。さらには保護者との共同作業で記入する進学希望や将来の希望職業の欄もあり、成績の反省だけに留まらず、保護者の願いや励ましも書かれ、生徒の指針となっている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- ① 学力調査結果より、具体的な課題をとらえることができた。
- ② 読み取る力、聞き取る力、表現する力の向上に力を入れることができた。
- ③ 意識調査結果から、読書に親しむ機会を与えることができた。
- ④ 夢チャレンジャー（学習成績等連絡表）や、地区懇談会、三者面談などを通して、保護者との連携を密にすることができた。

(2) 課題

- ① 学力調査結果から分かる各教科の細かい課題を、一つ一つクリアしていくために、教科担当教師による、対策委員会を頻繁に開き、日々の授業や課題で実践する。
- ② 日常的に読書を楽しむことができる生徒を育てるための研究をする。
- ③ 学力向上のための家庭や地域との連携のあり方を研究する。